

2021年度入試

入学試験問題集

【東京成徳大学 経営学部 経営学科】



東京成徳大学 東京成徳短期大学

目 次

総合型選抜 9月入試 小論文	1
総合型選抜 10月入試 小論文	2
総合型選抜 12月入試 小論文	3
学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試） 小論文	4
外国人留学生入試 小論文	5
一般選抜 D日程入試 総合型問題（学部学科別）	6
出題意図	8

「一般選抜 A 日程・B 日程・C 日程」の問題は、
「2021 年度入試問題集 一般選抜 A 日程・
B 日程・C 日程（全学部・学科共通）」に掲載
しています。

●総合型選抜 9月入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

【課題文】

日本でも、人間の生活空間として都市を再生しようとする息吹を感じることができる。北の大地北海道の札幌市でも、環境と文化を重視した都市づくりがはじまろうとしている。

札幌市では都市環境を再生するため、都心に歩行者中心の空間として、トラフィック・セル(註)を形成し、都心交通の四割をしめる通過交通を排除しようとしている。つまり、都心交通概念を「自動車交通の円滑化」から「歩行者・環境重視」へと転換させようとしている。さらに、大気とともに環境の両輪となる水についても、創成川を整備して、水辺空間の再生に取り組んでいる。

このように環境を改善するとともに、都心のオープンスペースを芸術と文化のイベント広場として活用し、文化による町おこしをねらっているのである。

南国土佐の高知市でも、人間の生活空間としての都市づくりをめざしている。松尾徹人市長は、ショッピングセンターの機能をあわせもつシネマコンプレックスの建設を、敢然として拒否している。

ヨーロッパでは多くの国で、ショッピングセンターを原則として認めていない。自分たちの街から商店街が姿を消してしまうからである。住民たちの歩いていける距離に、日常生活を営むのに必要な商品を購入できる商店が消滅して困るのは、住民である。

スウェーデンの田舎町で、「この町の商店街では物価が高いけれども、自分たちの町から商店街が消えないように、少々物価が高くても自分たちの商店街で買い物をします。商店街がなくなって困るのは住民です。自動車を運転できないお年寄りはどうなるのですか。自動車を運転できない子どもたちはどうするのですか」と、若い女性に諭されたことを思い出す。自動車と冷蔵庫という重化学工業製品に依存した都市づくりは、過去のお伽話になろうとしているのである。

(註) トラフィック・セルとは交通工学研究会によると、「地区を数ゾーンに分割して、公共交通システム以外はゾーン間の直接往来ができないようにしたシステム」である。

出典：神野直彦『人間回復の経済学』岩波書店、2002、ISBN-13: 978-4004307822、pp.178-179。

作問のため、記号を付記した。

【問題1】 下線部1 および下線部2 の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

【問題2】 課題文は、日本の都市づくりについて、どのように述べているか。解答欄に120字以内で要約しなさい。

【問題3】 都市におけるショッピングセンターの在り方について、課題文を踏まえてあなたの考えを述べなさい。解答欄に480字以内で論述しなさい。

●総合型選抜 10月入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

【課題文】

グーグルは情報検索をコア能力とする会社である。そのような会社における人の評判情報の共有（註）はどのような形となっているのであろうか。

ここに象徴的な話がある。

グーグルはかつての日本企業と同じように、つい最近まで「社員旅行」を行っていたそうである。研究室時代から続いていた取り組みだそうだが、「全社」（世界という意味の全社）でスキー旅行に行っていたそうである。どのくらいの人数まで世界の従業員が一緒に行けるかと試したところ、三五〇〇人まで一緒に行けたそうである。

またグーグルでは社内に種々のゲームが置かれている。面白いゲームには人があらゆる部署から集い、興じる。

この例が象徴するように、グーグルでは、人と人との出会い、交流、結びつきを重要視している。

人と人が出会うことで、お互い刺激を受け、それが創造性の源となる。

人と人が出会うことが、協働を進める上でのベースとなる。

また、他の取り組みとしては、オフィス環境の作り方も人と人の交流を促すものとなっている。

まず、個室をつくらない。日本法人では社長もオープンな場所に自分の机があるという。物理的な壁をつくらないということであろう。

この効果は意外と大きい。常にお互いが見える環境であるということは、相手が何をしているか様子がわかるということである。この情報は暗黙的ではあるものの、評判情報の共有において大きな位置を占める。

註 高橋ら（2008）は評判情報の共有に関連して、以下のように述べている。

「お互いの『人となり』を知れば知るほど（それがお互いよい人となりである必要はあるが）、協力関係は生まれやすい。」（pp.38-39）

出典：高橋克徳・河合太介・永田稔・渡部幹『不機嫌な職場』講談社、2008、ISBN: 978-4062879262、pp.99-101。

作問のため、一部に記号を付記した。

【問題1】 下線部1を実現するためにグーグルが行った取り組みを、課題文から3種類挙げなさい。

【問題2】 新型コロナウイルスへの対策として、また働き方改革の一環として、テレワーク（職場ではなく自宅などで仕事をする）が普及しつつある。このような状況において、下線部1を実現するには、どのようにしたら良いか。課題文を踏まえてあなたの考えを述べなさい。解答欄に600字以内で論述しなさい。

●総合型選抜 12月入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

【課題文】

近年の消費行動について、モノやサービスを購入する「モノ消費」より、購入したモノやサービスを使ってどのような経験・体験をするかという「コト消費」に、消費者の関心が置かれているといわれています。

このような傾向の背景の一つとして、情報化の進展によりデジタル化されたコンテンツが複製によって簡単に手に入るようになり、モノを所有することの意義が低下する、また、デジタル化されていない情報やコンテンツの価値が相対的に高まるという影響が生じたことなども考えられます。

「コト消費」の傾向は、デジタルネイティブと呼ばれる世代に当たる若者の消費行動において、他の年齢層より強く表れるとみられることもできます。実際、消費者庁「消費者意識基本調査」（2016年度）によると、「スポーツ、カンセン・映画・コンサート鑑賞」といった「コト消費」について、お金を掛けていると回答した人の割合は、24歳までの年齢の若い層で高くなっています。

他に、「交際（飲食を含む）」にお金を掛けていると回答した人の割合は、20歳代で45.2%と、全体の29.0%を大きく上回っています。今後お金を掛けたいとの回答の割合でも、全体が25.7%のところ、20歳代では39.4%であり、人とのつながりに軸を置いた「コト消費」を重視していることが分かります。「旅行」にお金を掛けている、又は今後お金を掛けたい、との回答にも同様の傾向がうかがえます。

また、若者が中心となって広まった「コト消費」もあります。最も普及した「コト消費」としては、ハロウィンが挙げられます。ここ数年の間に、若者がカソウし、友人と楽しむ姿が日本でもよく見られるようになり、その市場規模はバレンタインデーを超えたという試算もあります。

出典：消費者庁「平成29年版消費者白書」第1部第3章第1節(3) 若者の消費に対する意識 https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/2017/white_paper_132.html#m01

作問のため、一部の文言を改め、記号を付記した。

【問題1】 下線部の語句の表記として適切なものを、選択肢から選択し、解答欄に記号を記入しなさい。

- (1) 下線部1に対する選択肢 ア 感染 イ 幹線 ウ 艦船 エ 観戦
(2) 下線部2に対する選択肢 ア 仮装 イ 仮想 ウ 下層 エ 家相

【問題2】 課題文は若者の消費行動に見受けられる傾向を指摘している。このような傾向を踏まえると、企業は若者に対して、どのような商品やサービスを提供することが有効であろうか。あなたの考える商品やサービスを提案しなさい。以上について解答欄に600字以内で論述しなさい。

●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

【小論文】（試験時間：60分）

以下の課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

【課題文】

東日本大震災の時、テレビで原発事故の内容を原子力の技術者が説明するのと、文系のキャリアが説明するのと、どちらが私たちにとってわかりやすかっただろうか。私には技術者の説明は正直に言って、よくわからなかった。多くの人にとっても、いわゆる文系と理系のギャップを感じる瞬間だったのではないだろうか。

技術者の方は、おそらく専門分野の中では評価される仕事をしてきたのだろうが、他の分野の人からその説明の仕方がどう見えるかという観点を感じられなかった。原子力発電所のあり方を、国のエネルギー政策全体の中で、あるいは文明の利器として考えていく場合、少なくともそれでは対応できないだろう。

企業の現場でも、ある製品を上手に作るというだけでは社員としていい仕事をしているとは言えないはずだ。使い手の気持ちが変わらなければ駄目だし、売り手の気持ちもわからなければいけない。世界中で教育水準が上がり、高学歴者の数が急増し、高学歴者間での競争が激しくなってきた現代は、専門分野の能力が今まで以上に必要になっている。さらに、そこに複数の視点を持つことも必要になってきている。具体的に言えば、他の分野と話ができるかどうかにかかっているのだ。

企業が今、大学生に求めている教養は昔ながらのものとは違って、他分野と話ができるセンスのことなのではないか。他の分野の人と話をするのは案外難しいことである。大学という組織の中で文系・理系の融合、あるいは共同研究をする場合、言葉の意味を含めたカルチャーの違いが第一関門になる。分野として近そうに見える経済学と法学においても、たとえば「契約」という言葉の意味が違っているのである。

出典：大竹文雄『競争社会の歩き方』中央公論新社、2017、ISBN: 978-4121024473、pp.131-133.

【問題 1】 課題文は、原子力発電所の事故に関する技術者の説明がわかりにくかった原因と、これを防ぐために必要な能力について、どのように述べているか。解答欄に 120 字以内で要約しなさい。

【問題 2】 本学のカリキュラムでは経営学に関連する科目として、経済分野、法律分野、情報分野、心理分野の科目を置いている。これら関連科目の中で、あなたに関心を持つ分野または科目を挙げなさい。そしてあなたに関心を持つ理由を、課題文を踏まえて説明しなさい。以上について解答欄に 480 字以内で論述しなさい。

●外国人留学生入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。
なお著者はニュージーランドで、羊飼いとして働いたことがある。

【課題文】

外国で暮らすには、何をすることもコトバの問題がつきまといます。

言うまでもなく、共通の言語は外国人同士が相互理解を深めるための最良のツールです。

羊飼いとして働きはじめた頃、牧場の 壊れた柵を直すのに、牧場主にトンカチやクギがどこにあるのかを聞くのでさえ一苦労でした。逆に言うと、コトバがわかれば、それだけその国の文化や人々を理解するスピードも速くなりますし、それだけ深く理解することもできるのです。

日本で暮らしている外国人と私たち日本人との関係で言えば、カギになるのは日本語です。

日本語が不自由なく話せれば、コミュニケーションには困りません。地域社会と円滑な関係性が保てるだけでなく、仕事に必要な知識や技能も身につけやすくなるでしょうし、職場における労働生産性や安全性の向上にもつながるはずです。また、日本の文化や慣習に関する知識なども増えるはずですから、きっと地域社会との融和もスムーズに図れるでしょう。

いま、日本で暮らす外国人のための日本語教育環境は、とても十分であるとは言えません。

ドイツが“移民”に対して、スムーズな社会統合を図るために600時間のドイツ語教育を 施しているのとは対照的に、日本にはそのようなプログラムがないのです。

出典：芹澤健介『となりの外国人』マイナビ出版、2019、ISBN-13: 978-4839969721、pp.134-136。
作問のため、記号を付記した。

【問題1】 下線部1の読み方と下線部3の読み方を、ひらがなで解答欄に記入しなさい。

【問題2】 下線部2の意見に対して、あなたはどのように考えるか。あなたの経験を踏まえて、以下の点に注意しながら論述しなさい。はじめに、下線部2の意見に対するあなたの主張を明示すること。次に、その理由を説明すること。解答は解答欄に400字以内で記述すること。

●一般選抜 D日程入試

【総合型問題（学部学科別）】（試験時間：60分）

以下の課題文と資料を読んで、後の設問に解答しなさい。

スマホ（SNS）のもっともよくない利用法は、誰かから連絡があるたびにアラート（呼び出し）が鳴るように設定されているケースです。

電子メールが電話に比べてよいとされたのは、自分の時間で接することができることでした。

電話には呼び出し音がつきものです。呼び出し音は、1こちらの事情をいっさい考えず、連絡したい人の都合だけで鳴ります。言葉を換えれば、電話とは連絡される側の都合を考えず鳴る、とてもぶしつけなメディアです。

「電話ってのは、鳴ってほしくないときに鳴るものなんだ」

そんなふうにいる人も多いことでしょう。

もっとも、電話が鳴らないのがさみしいときもあります。鳴ってほしくて、じっと電話機を見つめたような経験が、誰だっただけでしょう。

連絡があるたびスマホのアラートが鳴るように設定している人は、そんな気持ちがあるからでしょう。すると、場合によってはひっきりなしにアラートが鳴っているような事態にもなるのです。「既読ムシ」はなくなるでしょうが、どこに行くのにもスマホを手放すことができません。いわゆる「スマホ 2依存」「ネット依存」の状態です。

これは決して健康な状態とは言えないのではないか。そう感じる大人たちが増えているのも事実です。3自治体（市町村）単位で、青少年のスマホ使用を制限する動きが出てきています。夜9時以降はダメ、という決まりを作ることが多いようです。

出典：草野真一『SNSって面白いの？』、講談社、2015、ISBN-13: 978-4062579261、pp.76-77.

作問のため一部に記号を付した。

[資料]

インターネットを使っている青少年(2,977人)に、インターネット上のトラブルや問題行動に関連する行為の経験を聞いた。

〈Q1-1で「1はい」（インターネットを利用している）と回答した方に〉

〔回答票7〕

Q5 あなたは、インターネットを使っていて、以下のようなことがありますか。この中から、あてはまるものをすべてえらんでください。（いくつでも）

表 インターネット上の経験 (%)

インターネットにのめりこんで勉強に集中できなかったり、睡眠不足になったりしたことがある	14.0
迷惑メッセージやメールが送られてきたことがある	13.2
インターネットで知り合った人とメッセージやメールなどのやりとりしたことがある	11.0
自分が知らない人や、お店などからメッセージやメールが来たことがある	10.2
他人が見ることのできる SNS 等で、自分の情報（名前や写真、メールアドレス、ID など）を書き込んだこと がある	7.5
悪口やいやがらせのメッセージやメールを送られたり、書き込みをされたことがある	3.5
他人が見ることのできる SNS 等で、他人の情報（名前や写真、メールアドレス、ID など）を書き込んだこと がある	3.1
ゲームやアプリで、お金を使いすぎたことがある	2.9
インターネットで知り合った同性と会ったことがある	2.4
親に話しにくいサイト（アダルトサイト、犯罪行為やその方法を掲載しているサイト等）を見たことがある	1.7
インターネットで知り合った人との人間関係で悩んだことがある	1.0
悪口やいやがらせのメッセージやメールを送ったり、書き込みをしたことがある	0.7
インターネットで知り合った異性と会ったことがある	0.7
その他に困ったことがある	0.6
あてはまるものはない	65.0
わからない	1.5

出典：内閣府「令和元年度青少年のインターネット利用環境実態調査」、<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/r01/jittai-html/index.html>、
2021年2月9日。
作問のため抜粋、作表した。

[問題 1] 下線部 1 の内容を具体的に表現した語句が、課題文の中にある。その語句を 6 字で抜き出し、解答欄に記しなさい。

[問題 2] 下線部 2 の読み方を、ひらがなで解答欄に記しなさい。

[問題 3] 下線部 3 に対し、あなたはどのように考えるか。資料を根拠として用いて、論述しなさい。解答欄に 600 字以内で記すこと。

●出題意図

総合型選抜 9月入試【出題意図】

持続可能な開発目標（SDGs）をいかにして企業経営に取り込んでいくかは、持続的な企業価値の向上の観点から重要である。SDGsの第11の目標は「住み続けられるまちづくりを」であり、都市づくりもまた解決すべき社会課題と言える。この課題を解決するには、様々な立場から検討することが期待される。

受験生には、このような時事的な問題に関心を持つこと、日常生活の身近な経験から社会問題へと関心を広げていくことを、期待している。そこでこの問題では都市の在り方を説明する課題文を呈示し、考察させた。

出典 神野直彦『人間回復の経済学』岩波書店、2002、ISBN-13: 978-4004307822, pp.178-179.

[問題 1]

基礎的な語彙力を問う。

[問題 2]

文章を要約する力を問う。

[問題 3]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既存の知識と課題文の説明を組み合わせ、新たな考えを産出している程度を査定する。自ら課題を発見し探究する思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

総合型選抜 10月入試【出題意図】

企業において生産性を高めるためには、成員同士のコミュニケーションが良好であることも重要である。ところで新型コロナウイルスへの対策として、また働き方改革の一環として、テレワーク（職場ではなく自宅などで仕事をする）が普及しつつある。これによって企業内のコミュニケーションの在り方も変化せざるを得ない。コミュニケーションの新たな方法が求められている。

受験生には、このような時事的な問題に関心を持つこと、日常生活の身近な経験から社会問題へと関心を広げていくことを、期待している。そこでこの問題ではある企業の事例を紹介した課題文を呈示し、企業内のコミュニケーションの在り方を考察させた。

出典 高橋克徳・河合太介・永田稔・渡部幹『不機嫌な職場』講談社、2008、ISBN: 978-4062879262, pp.99-101.

[問題 1]

基礎的な読解力を問う。

[問題 2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既存の知識と課題文の説明を組み合わせ、新たな考えを産出している程度を査定する。自ら課題を発見し探究する思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

総合型選抜 12月入試【出題意図】

近年の消費行動について、モノやサービスを購入する「モノ消費」より、購入したモノやサービスを使ってどのような経験・体験をするかという「コト消費」に、消費者の関心が置かれている。「コト消費」の傾向は、デジタルネイティブと呼ばれる世代に当たる若者の消費行動において、他の年齢層より強く表れるとみられる。

受験生には、このような時事的な問題に関心を持つこと、日常生活の身近な経験から社会問題へと関心を広げていくことを、期待している。そこでこの問題では若者の消費行動に関する一つの考え方を表した課題文を呈示し、このような消費者に向けた商品やサービスを検討させた。

出典 消費者庁『平成29年版消費者白書』2017、ISBN13: 978-4906955718, pp.129-130.

[問題1]

基礎的な語彙力を問う。

[問題2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心に向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既存の知識と課題文の説明を組み合わせ、新たな考えを産出している程度を査定する。自ら課題を発見し探究する思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【出題意図】

企業は大学を卒業した人材に対して、専門知識よりも、何にでも対応できる汎用的な力として、社会人基礎力を求める傾向がある。換言すれば、能動的で自立的・自律的な能力を、養成する必要がある。異分野の人々と協働するには、異分野の人々と話し合うための基盤となる教養が求められる。

この問題では学びに関する一つの考え方を表した課題文を呈示し、この考え方に沿って自らの学びを同定し評価させた。

出典 大竹文雄『競争社会の歩き方』中央公論新社、2017, pp.131-133.

[問題1]

文章を要約する力を問う。

[問題2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、自らの学びに関心に向け、評価する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既存の知識と課題文の説明を組み合わせ、新たな考えを産出している程度を査定する。自ら課題を発見し探究する思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

外国人留学生入試【出題意図】

日本で暮らしている外国人は、日本語が不自由なく話せれば、コミュニケーションには困らない。地域社会と円滑な関係性が保てるだけでなく、仕事に必要な知識や技能も身につけやすくなる。職場における労働生産性や安全性の向上にもつながる。また、日本の文化や慣習に関する知識なども増えるはずであり、地域社会との融和もスムーズに図れるであろう。

課題文は、日本で暮らす外国人のための日本語教育環境は、十分であるとは言えない、と主張している。この問題では、外国人留学生として日本で暮らすことを目指す解答者に、日本語の教育環境について、自身の経験に基づいて意見を述べさせた。

出典 芹澤健介『となりの外国人』マイナビ出版、2019、ISBN-13: 978-4839969721、pp.134-136。

[問題 1]

基礎的な語彙力を問う。

[問題 2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。日本への留学を自身の問題として考慮している程度を査定する。自らの経験を客観的に考察する思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

一般選抜 D日程入試【出題意図】

青少年にとって、スマートフォンによって SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を利用することは、日常生活に欠かせないこととなっている。SNS はコミュニケーションのツールとして、有用である。しかし連日長時間、使用することについては、弊害も指摘されている。

受験生には、このような時事的な問題に関心を持つこと、日常生活の身近な経験から社会問題へと関心を広げていくことを、期待している。そこでこの問題では SNS の制限に関する一つの主張を表した課題文を呈示し、このような主張に対する意見を検討させた。併せて関連する資料を呈示し、論述に際しこれを利用することを求めた。

出典

草野真一『SNS って面白いの?』、講談社、2015、ISBN-13:978-4062579261、pp.76-77、作問のため一部に記号を付した。

内閣府「令和元年度青少年のインターネット利用環境実態調査」、<<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/r01/jittai-html/index.html>>、2021 年 2 月 9 日、作問のため抜粋、作表した。

[問題 1]

基礎的な読解力を問う。

[問題 2]

基礎的な語彙力を問う。

[問題 3]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文および資料の理解度である。課題文および資料が表す意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文および資料を理解するには、社会の動向に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文および資料を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、主張の妥当性である。既存の知識と課題文の説明を組み合わせ、主張を産出し、資料を利用して論理を組み立てている程度を査定する。論理的な思考力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。